

日時	令和3年7月2日金曜日 10時40分から12時
場所	まなび創造館 多目的室1・2
参加者	運営委員：植松浩二郎、中野江美子、中川裕子、長谷川留美子、矢田猛、松由美由紀 事務局：鍛冶屋部長、櫻井次長、川尻所長、近藤指導保育士、服部係長、森島館長、野地館長（味岡児童館）、寺田館長（篠岡児童館）、粕谷館長（小牧児童館）、安藤館長（小牧南児童館）、山田館長（北里児童館）、水野館長（西部児童館）、坪井館長（大城児童館）、神谷
司会	本日はお忙しいところ、会議にご出席いただきましてありがとうございます。 ただいまから、令和3年度第2回小牧市児童館運営委員会を開催します。 はじめに、会議の定足数に関して報告します。小牧市児童館の管理に関する規則第14条第2項で過半数5名の出席が必要とされていますが、本日は6名の委員が出席しており、会議は成立しています。穂積委員、来治委員、小島委員、沖本委員より欠席のご連絡をいただいております。また、この会議は公開となっておりますが、傍聴者はございません。また、会議録を後日あげさせていただきます。 では最初に、こども未来部長の鍛冶屋より、あいさつを申し上げます。
こども未来部 鍛冶屋部長	皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました部長の鍛冶屋でございます。本日はご多忙にもかかわらず、第2回小牧市児童館運営委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様方には本市の教育・福祉行政の推進に日頃より格別のご支援・ご協力をいただき、改めて厚くお礼を申し上げます。 さて、緊急事態宣言も明け、最近では少しずつ来館者も増えてきました。まだまだ予断を許さない状況ではありますが、来館者の笑顔が見られ、職員もほっとしております。 また、こども未来館について、第1回運営委員会でも皆様にご意見を伺いました通り、市外の方の受入れに向けて準備を進めております。 子育て支援の拠点として、各児童館、こども未来館ともに今後益々発展していくために、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。
司会	それでは、議題に入ります。ここからの進行につきましては、規則第13条第2項で「委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。」ことが規定されていますので、植松委員長よりお願いします。
植松委員長	皆さん。おはようございます。議長を務めさせていただきます植松です。それでは、議事に入ります。令和2年度児童館・子育て支援室実績報告について、事務局の説明をお願いします。

森島館長
(こども未来館)

令和2年度児童館・子育て支援室利用実績報告について、説明をさせていただきます。お手元の資料1-1をご覧ください。令和2年度は緊急事態宣言が発令され、利用制限、講座や催しが縮小され、全館利用人数が減っております。

来館できなくなったこどもたちは、今どんな気持ちなのだろうと思いを巡らせながら、できることを模索した1年でした。

閉館を知らずに来てしまった子に児童館の外で話を聞いたり、自宅で遊べる工作キットを作って渡したり、遊びの動画を配信したりしました。開館できるようになると、感染予防対策をどうとるか、消毒の徹底、三密の回避、ソーシャルディスタンスの確保など安心して過ごせる環境に気を配りました。大人以上にストレスを感じ、不安でいるのはこどもたちだと思います。

そんな状況だからこそ今まで以上に温かい対応に心がけました。

次に令和2年度支援室利用実績報告をさせていただきます。お手元の資料1-2をご覧ください。支援室も児童館同様に制限がかかりました。

コロナ禍でますます孤立し、母親に子育て不安やさまざまな負担がのしかかっています。また発達や発育の相談も低年齢化しています。その思いに傾聴し、各関係機関や施設につなげる役割を担ってきました。今後もこの傾向は増していくと考え、体制作りに努めてまいります。

続きまして、令和2年度児童館行事別利用人数についてご説明します。児童センター・こまきこども未来館についてです。お手元の資料2-1をご覧ください。児童センターは3月6日によりやく市の中央児童館であるこども未来館としてオープンしました。広くなった施設で、新しい職員も増える中、旧児童センターで大切にしてきた来館者との心のつながりや思いを引き継ぎ、施設運営に努めています。

野地館長
(味岡児童館)

味岡児童館は5つの理念（1地域ぐるみで育ちあう児童館2多世代で育ちあう子育て支援3中高生の集い使える児童館4多文化共生できる児童館5社会教育を担う児童館）を基に運営を心がけました。

「地域の輪、友達の輪を広げよう」を目標に掲げていましたが、コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令に伴う閉館を経て、6月からは感染予防のため人数、時間、利用場所について制限を設けながら、自由来館の受け入れ、参加者が集って楽しむ講座が始まり、9月からはクラブ活動が再開と、月日が経つにつれ、小学生や中高生の利用も増えてきました。おもちゃや環境に制限を設けながらも「楽しかった」と思える時間にするには、目標を叶えるには、等々運営について考える日々でした。

年間行事として予定したイベントの開催は見送ることとなりました。「味岡らしさ」でもある地域サポーターや学校との協働事業実施や交流についても目途が立たず、毎年多くの来館者が楽しみにしているメイン事業「サマーフェスティバル」、周年記念の餅つき「ハッピーバースデー」も、「人が集うことは心配」という“安全”を意識した声が利用者からも聞かれていました。

日ごろ利用しているとはいえ、児童館は「安全であるか」「安心して過ごせるか」についてはとても関心が高く、館内の消毒作業のため、一時閉館することが「安全であるか」「安心して過ごせるか」と結びつき、特に乳幼児など小さなこどもを連れたママ達にとって、こうした目に見えてわかる対策があることで安心感を得られる。またそのように努めてきました。

寺田館長
(篠岡児童館)

子育て中のママの中には、こうした状況下となり家庭での孤独を吐露する方も多く、「大人と話がしたい」「久しぶりに話せて泣けてきた」など、誰かと話せるそれだけでも、育児に向かうママたちの力になり、ホッとできる。孤独な育児のつらさを知る機会ともなりました。

そうした不安やこどもを育てる上で悩むママたちに寄り添えるよう、子育て支援員として毎月研修を重ねてきました。

また助産師を講師に迎えた「あいあいサロン」では、こどものことのみならず、ママたちのケアもしていただき、育児については多方面からサポートが必要だということを、改めて実感しました。

コロナ禍の中で実施が困難であることが多い中、誉高校生のインターシップを2度受け入れました。これをきっかけにまた一つ地域とつながることができ、学習や音楽室ではなくふらっと立ち寄れる中高生の利用について考えていきたい、これは今後の課題でもあります。また令和2年度は味岡の特徴でもあるかまどが、調理企画中止で稼働しませんでした。遊びに関しても「できない」ではなく、「これならできる」を見出していくことも課題であると考えます。

コロナウイルス感染予防の対策についてはまだ続くと考え、このような状況下でも安心して遊ぶことができる環境づくりとスキルアップを図りたいと思います。

味岡児童館は、令和3年度より一般社団法人なないろにこりが指定管理を受け、運営を行っております。地域で暮らす皆さんと、児童館をきっかけにできたご縁を大切しながら交流を図り、利用する皆さんの主体性が児童館を作る。皆さんの思いや考えが反映できる運営に改善していきたいと思っています。

篠岡児童館は令和2年度も5つの理念に基づき「児童館であそぼう・楽しもう。地域と共に育ち合う」ということを大切に運営しました。

今もまだその状況にありますが、昨年度よりコロナの影響を受け、「行く時間を選ばざるを得ない」「行けたとしても児童館内で遊べないかも」と時間や人数等にいろいろな制限ができ、気軽に行ける児童館がそうでなくなったことに子どもたちや保護者の方は勿論、職員も大きな衝撃を受けています。

令和2年度は地域の方々にお手伝い頂き開催していた多くのイベントも中止を余儀なくされ、地域と共にある児童館が孤立してしまうのではないかという危機感も感じたほどです。

しかしこういった状況だからこそ今何を大切にすべきかを職員と考え話し合い、人との距離はとつても心の距離は離れないように気を付けました。

子育て支援としてはコロナでより育児が孤立しないよう、一組一組に合った支援を心がけ、必要時には包括と連携をとり丁寧に関わりました。

粕谷館長
(小牧児童館)

またコロナの影響を一番受けているであろうこどもたちとの対話を大切にしました。篠岡児童館の隣には篠岡小学校がありますが、コロナ禍で人とのつながりが薄れているそんな生活の中でも、地域の人から大切に思われているのだと少しでも実感してもらうことで心豊かに育ってほしいと願い、下校時にはこどもたちに声を掛け見守りを行いました。

今も継続しておりますが、最初の頃下を向いて歩いていたこどもたちが今では笑顔で「さようなら」と手を振り「児童館に後で行くね」「今日は今から眼科に行くよ」等こどもたちの方から話しかけてくれます。後日その親御さんにお会いした時に「挨拶してくれるよ」「積極的に話しかけてくれるよ」と伝えると、「家では挨拶できないから注意することが多いのに」「物静かな子なのに自分から話すなんて」とお子様の様子に喜んでみえます。

令和2年度私たちは「つながる」ということを大切にしてきました。この先コロナの状況がどう変化するのか不透明な部分も多いですが、こどもたちママたち地域とのつながりを普段の生活の中でコツコツと築いていきたいと共に、コロナ禍で今は玩具や環境・来館者等をどうしてもこちらが管理しなくてはいけないことが多いです。

児童館は管理することが職務ではなく、来館者の様子やニーズに合わせ、時には共に考えて築き上げていくことが大切だと感じています。とても大きな課題ですが、地域と共にある児童館だからこそ大切にしていきたいです。

小牧児童館は、地域に根差した児童館として「誰もがほっと安らぐ居場所づくり」「あそびを通しての仲間づくり」を目標に運営を行っています。

昨年度は、4月、5月新型コロナウイルスの感染拡大による休館、6月に開館することができました。制限のある中、感染予防をしながら、今、私たちは地域のこどもたち、保護者たちに何を提供できるのであろうかと、職員全員で試行錯誤する毎日でした。6月に開館した当初はイベント、クラブ、広場はすべて中止。そこで、まずは、初心に帰り、利用者とのコミュニケーションを大切にすることとしました。

今、利用者は何を求めているのかを日常会話の中から拾い出し、更なるサービスの向上や子育て支援へと繋いでいきました。まずは、工作コーナーや塗り絵をリニューアルしてほしい、イベントを行ってほしい、お母さんと一緒に曲で体操の時間がほしいなどの意見を取り入れていきました。

クラブ、広場の中止期間中には、ちびっこ広場の半分の時間で、毎日違う職員がふれあい遊び、読み聞かせ、手遊びを行い、外出が制限される幼児親子に楽しんでもらいました。体を動かしてもらうことで、運動不足の解消にも繋がったと思われます。

イベントについては、小牧市の夏祭りや各地の花火大会も中止になる中、少しでもこどもたちに喜んでもらおうと、密を避けるため開催日を3日間とし、広報活動は行わず、サプライズでミニ夏祭りを行いました。水風船釣りや、職員手作りのかめすくい、金魚すくいなどのミニ縁日に、こどもたちも保護者もとても喜んでくれました。

秋からは、毎年恒例のハロウィンパーティー、クリスマス会、児童館祭りなどのイベントの開催を中止するのではなく、「どうしたらできるのか」を職員で話し合い、密を避け、消毒、換気の徹底、受付時の対応、当日の運営等、コロナ禍においてもイベントを職員が円滑に行うことができるようになりました。

安藤館長
(小牧南児童館)

今年度は要望の多い、昨年中止したお化け屋敷を開催したいため、「どうしたらできるのか」を考えていきます。

コロナ禍だからこそ、できたイベントもあります。今まで開催したくてもできなかった中部フィルハーモニーのミニコンサートをボランティアで行って頂けたことも良い取り組みであったと思います。

コロナ禍において、子育て中の保護者の感じているストレスは増加傾向にあり、ストレスが解消されるような企画も求められています。日々の傾聴などは勿論のこと、日常と離れた体験、例えば、音楽を通じての癒し、音楽を通じて人と人が繋がる企画も今後たくさん行っていきたいと思っています。

昨年は年度末にドラムサークルも開催でき、好評でした。小牧児童館で結成しているみなくる音楽隊も、当初はママと職員で結成されていましたが、昨年度からは、小中学生も参加し、にぎやかになりました。マスクを付け、隣の人との間隔をかなり取りながらの活動ではありますが、今後も音楽で繋がる活動を続けていきます。

9月から活動ができた小中学生ボランティアのこどもプランナーや父母クラブは、昨年度登録人数は少なめでしたが、どちらもイベントに積極的に参加し、自分たちで企画をし、主体的に活動ができました。今年度のプランナーは継続の子以外にも申込みがあり、増加傾向。高学年が多いため、イベントの企画だけではなく、児童館の周辺や館内の危険箇所マップ作りにも関わってもらおうと企画しています。地域のこどもや父母の主体性を伸ばす活動を支援していきます。

子育て支援室は、前年度に比べると、利用増となっています。ただし、コロナ禍前よりは少なく、常連の親子さんは、幼稚園、保育園に上がり、児童館も新しいメンバーになりつつあります。今年度も母親や父親、祖母、祖父と寄り添い、利用者親子がほっと安らぐ支援室運営を目指していきます。

小牧児童館は平成27年より「あつまれ！双子ちゃん」を開催しています。昨年度は、新たにもうひとり、双子ちゃんを育てた経験のある職員が加わりました。月ごとにテーマを決め、活動を行っていきます。

今年度も、まだまだ通常の生活には戻れませんが、新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行いながら、利用者のニーズに合った、地域に根差した児童館運営を行っていききたいと思います。

こどもから大人まで、誰もがほっと安らげる居場所作りに取り組みます。また、中高生の学習室利用を周知し、利用を増やしていきたいです。

小牧南児童館は、小牧市南部コミュニティセンターとの併設館で、ふらっとみなみの愛称で親しまれており、「すべてはこどもたちのために」を施設目標に運営を行っております。

来館者は非常に多く、コロナ禍の現在でも1日100名を超える方の利用があります。また近隣の春日井市、豊山町、名古屋市などからの利用者も多く、緊急事態宣言下では市外の方の利用ができなかったのですが、宣言が明けるとともに、多くの方で賑わっている状況です。

さて、令和2年度の報告になりますが、昨年度は新型コロナウイルスの拡大に伴う閉館などもあり、思うような活動ができませんでした。休館中は、普段できなかった館内整備を行いながら、オンラインでの遊びの発信、近隣への工作の配布、本の貸出等、「こどもたちのためにできること」を職員一同で模索する毎日でした。

緊急事態宣言が解除された後も、3密を避けた活動という事で、今まで児童館で重要視していた「人とのふれあい」「交流」がしにくい状況が続きました。行事は全て事前予約で、今までのような「気軽に行けていつでも受け入れてくれる」という児童館本来の機能も失われてしまいました。

そのような状況ではありましたが、考え方を前向きに変えて、人数制限があるからこそできる事、今まで人数が多くてできなかった企画を考え実施に至っています。資料にその一例がありますが、8月の「ナイト児童館」や12月の「焚火教育」を行った経緯は、今まで、夏祭りなどの大型行事は、より多くの方に気軽に参加していただけることを考えていました。それが「できない」となった時、人数を制限し、密にならないような活動として、火気を扱う事ができるのではないかと考え実施に至ったものです。実際、花火を行ったり、火起こし、焼き芋をやったりと近年、家庭ではなかなかできない体験に、皆さん大変喜ばれたようでした。

令和2年度の重点目標としまして、昨年に引き続き、「大人も一緒に楽しめる事」を意識し運営を行っています。「大人が楽しいとこどもも楽しい」を合言葉に、大人の方にも積極的に子育てに取り組めるよう、楽しい企画を実施しています。

児童館はその名の通り、こどもの館でもあります。しかしながらそのこどもたちはこどもだけで成長していくわけではありません。大人の適切な関わりが大切です。地域の大人に向けて、大人の関わり方を知っていただくことはこどもを取り巻く環境を整える上でも重要と考え、今年度は地域の大人、保護者に対し、子育ての講座なども実施していきたいと思っております。

そして、こどもに対するアプローチとしまして、「こどもプランナー」活動も充実してきました。昨年度は、こどもたちの発案でプラネタリウムを実施したり、ふらみな縁日と言って地域の方と共催で行ったイベントでも「こどもプランナー」が大活躍いたしました。引き続き「こどもの主体性」を意識し、こどもの意見を取り入れながら新しい企画ができればと思っております。

また令和2年度の新規事業としまして、映像を使った遊びも行いました。このコロナ禍でオンライン会議だのオンラインでの情報発信だの、そういった技術を目にしたり耳にしたりすることはありましたが、如何せん、職員が良く分かっていないということもあり、あえて、そのような映像技術や機材を遊びに取り入れて実施したものです。技術的には家庭でもすぐにできる内容のもので、実際に家でもやってみようとの声も聞かれました。

また12月に行われました「クリスマス会」では、会場の人数制限があったことからリモートで映像を飛ばして別会場で鑑賞できるようになど工夫も致しました。

今現在も新型コロナウイルスの影響で、いろいろなことに制限があり、こどもたち、また保護者の皆様の思うような活動ができておりません。が、しかし、そんな中でも児童館としてできる事があると信じて、少ない人数で3密を避けた企画、インターネットを使った情報発信など、こどもはもちろん、利用者のニーズにできるだけ応え、こども・子育てに関わる全ての方々の受け皿でありたいと思っております。

今年も厳しい状況が続きますが、昨年以上の新しい企画・活動を実践していきますので、ご意見・ご協力を頂ければと思います。

山田館長
(北里児童館)

令和2年度はみんなが主役になれる児童館を目標とし、活動に取り組んでまいりました。

コロナウイルスの感染拡大により緊急事態が発令され、休館からのスタートとなり、また年度途中にも緊急事態が発令され、クラブや広場などが中止となることもありました。

休館中には乳幼児親子から行くところがなく、不安だったとの声が聞かれ、職員間でどうしたらよいのかを何度も話し合いをしました。また、開館にあたりどのように利用者さんを感染から守る事ができるのか何度も何度も話し合いをし、対策を考えました。

せっかく遊びに来てくれたのなら、楽しかった！と言って帰ってほしい。そのためには遊びやおもちゃの提供をどうしていったらよいのか、今も正解はわからないのですが、こどもたちは楽しんで児童館にきてくれているように感じています。

人数制限や時間制限が設けられてはいますが、最初は流れになれず戸惑うこどもたちもいましたが、今では利用者の方全員が利用になれスムーズに運営を行う事ができています。昨年度の活動としまして、少人数に人数制限をし、広場や講座を開催しました。最初は5組からの工作や、定員を半分にしていた広場や講座を児童館内の遊戯室で行いました。感染が少し落ち着いた11月には市民センターの講堂をお借りして、通常の半数ほどの人数ではありましたが大道芸とサイエンスショーを行いました。

久しぶりにみんなが集まり、イベントを開催したのですが、参加者の方から、皆と一緒に笑う事ができてよかったという声もいただき、笑うことの大切さを感じました。また3月には中部フィルハーモニーの方が演奏をしてくださり、0歳児の赤ちゃんから大人の方まで音楽に親しむことができました。0歳児のお子さんが音楽に合わせてお母さんに抱っこされて気持ちよさそうにしている姿や、小学生がパプリカなど知っている曲に合わせ、体を動かして踊ったり、本当に良い時間を過ごす事ができました。

コロナだからできないではなく、コロナだけでできる事を考え、来館者さんの笑顔をとたくさんみられるように努力していきたいです。また、オンラインを取り入れた取り組みにも挑戦していきたいと思っています。

北里児童館は北里市民センターの2階にあるのですが、2階にあるために兄弟のいる乳幼児親子が大きな荷物を持ち、下の子を抱っこし、上の子と手をつなぎながら階段を上がってくるといふ事があります。1階にセンサーを付けたので、人を感知しセンサーがなると1階に職員が下りていきサポートはしますが、保護者から階段が大変という声や時には危険だという声が聞こえてきます。もちろん職員がサポートはしていきますが、何か良い方法がないか課題として考えていきたいです。

緊急事態宣言が解除され、現在は児童館のいろいろな活動は開始されていますが、常に緊張感を忘れることなく安心安全を守り、活動をしていきたいと思っています。またできる範囲になりますがジュニア奉仕団の受け入れなど地域との交流も大切に取り組んでいきたいと思っています。みんなが主役となり、こどもが主体となり活動できる、地域に愛される児童館となれるように努力していきたいと思っています。

水野館長
(西部児童館)

「地域との連携」として、西部コミュニティー運営協議会の方々、地域の方々にご協力を頂きながら、多くの方に喜んでいただくための取り組みを提供させていただく予定でしたが、コロナ禍でほとんどが中止となりました。

コロナ禍でできる事は何だろうと職員間で相談をし、休館中は「絵本リユース」や児童館ならではの「工作の配布」をしました。

日頃、こどもたちのために作り上げたいものも休館中の今だからできる、喜んで貰いたいと前向きにとらえました。

西部コミュニティー運営協議会の方から頂いた段ボールを利用し大型の遊具の制作に取り組みました。運営協議会の打ち合わせ等に来られた際には児童館を覗いていただだけ「段ボールはどうなった？足りるか？」「できたら見せてくれ、孫を連れてこないかな！」と励ましていただけました。

運営委員会との協賛事業の7月親子映画会・クリスマス会・節分のすべてが中止になりましたが行事開催の打ち合わせをさせて頂き、児童館へのご理解も頂けているように思います。

7、8月には少しでも楽しんで頂けるように「ミニちびっこ」として、毎日広場を開催しました。

外出が限られる中、児童館で思いっきり走る行ためは、気持ちの発散にもなり、こどもにとって必要な基本的生活習慣につながり「帰宅後はこどもが昼寝をしました」母親にとっては「少しだがゆっくりできる時間ができた」との声もありました。

コロナ対策をしながらの工夫は大変ですが、「どうしたらできるのか」と前向きな工夫に切り変えることで見つかるものがありました。たくさんの方に来館いただく嬉しさと個々にゆっくり関わる嬉しさも味わいながら、少人数の講座開催に切り替えていきました。

児童館で利用して頂いている、手作り玩具や遊具には多くの方から作り方を教えて欲しいとの声がありましたので、時間を区切り少人数で開催することで喜んで頂けました。

特に「牛乳パック椅子」は予めから要望が多くキャンセル待ちが出る程お申込みを頂き、洗面所に置きました。玄関にあります等早速使って頂いています。

この牛乳パックは館便りを掲示させて頂いている地域の保育園から毎月頂いています。

保健連絡員さんからコロナ禍ですが紹介したい赤ちゃんが地域にいますが子育て支援室は入れますか？と連絡を頂いています。運営委員会・保育園・保健連絡員さん・地域の方々の協力があるの取り組みが成り立っています。

小学生から要望が多かった「ボードゲーム」を少しずつ揃えて「ボードゲーム大会」ができました。偶然来館した小学生も参加して大変盛り上がりました。

ルールを教えあう姿もあり、児童館は「こども同士が関わるきっかけ作りを提供する事」とも、再確認ができました。

これからも小さな遊びを増やし小中高生の対象のイベントの充実を意識していきます。

坪井館長
(大城児童館)

子育て支援室は、定期的にご利用いただけるように、一緒に子育て支援室を飾り付けようとの取り組みをしてきました。「久しぶりにハサミ・のり・色紙つかった」と喜んで頂けています。

「実家のような子育て支援室」との思いで今後も対応させていただこうと思います。

利用者の意見をお聞きしながら居心地のいい支援室にしていきたいと思っています。

R3年度は「アトリエ」企画を取り入れ〈1人でも楽しい〉〈大勢でも楽しい〉企画を考えていきます。こどもたちが発散できる楽しいもの、その中で育って欲しいもの、やりたい事に繋げるきっかけとなる事、こどもたちひとりひとりを大切にして西部児童館が居場所になって欲しいと思います。

コロナ対策が続くと考え、前向きにいい機会が得られたと職員間で共有していきます。

また、こどもの思う感覚と大人が思う感覚の違いもすり合わせながら、コロナ禍だからできる事・今だからひとりひとりのこどもの考えるルールをどのように受け入るか、一緒に取り組んでいきます。

今後の課題としては、小中高生が更に来館しやすい居場所として工夫をしていきます。広場やクラブを通して、児童厚生員と支援員と保護者が一緒に学びあう時間を作っていきたいと思っています。

西部児童館は「笑顔になれる場所」を目指し、職員の笑顔で来館者が「笑顔」になって帰っていただけるよう頑張っていきます。

大城児童館です。資料の2-8をご覧ください。令和2年度の重点目標に「楽しさのシェアリング」を掲げてのスタートでしたが、年間を通して、我慢の1年でした。

5つの理念を掲げて毎年運営しておりますが、その中のひとつ「地域ぐるみの運営」という面では地域サポーターの方々に活躍していただく場面はほとんど作れませんでした。

ただし、多文化共生という面では、地域の方が声を上げ、日本語支援や職員によるポルトガル語教室などを行いました。緊急事態宣言中は中止しましたが、多文化共生の輪だけは広げられた気がします。桃花台では外国人の利用率が増えており、多文化共生エリアになってきたのかなと実感しています。

支援室の利用については、傾向として多胎児の利用が増えていきます。双子の子が生まれる率が増えており、母親はいろいろな面でサポートを必要としています。児童館を通して包括・保健センターとかなり日常的に連携しながらサポートしています。ひとりで悩み始めると鬱になってしまい、負の連鎖にならないよう、できるだけ早く快方に向かうようサポートできるように心がけています。

もうひとつの傾向として、父親の子育て支援を広めています。土日はお父さんがたくさん来てくれますし、家庭によってはおじいちゃんが子育てする役割を担っているところも増えています。ほんの数年の乳幼児期に男性の活躍も顕著に見られるようになってきていると感じます。

	また、3歳児の利用が減ってきています。幼稚園・保育園に入られるお子さんが多く、お母さんたちの職場復帰が早くなっている傾向があります。その年齢の子たちのクラブ人数が減ることもありました。 小学生の様子ですが、こどもたちは仲良く友達と遊びたくて密になってしまったり、マスクを外してしまったりする傾向があり、そこを注意しながら声をかけ遊び方の指導しています。 行った講座の中では、英語を取り入れた講座が人気があります。以前から英語講座を行うよう行政からの指導があり、地域の中で英語教師をしていた方や子育てをしながら英語を教えていたママと、新しい講座を作ろうということでイングリッシュシャワーという講座を始めました。 新たなものでは、ワールドミュージックやそのほかいくつかの講座では音楽にも英語を取り入れながら、もしくは外国の音楽を取り入れながら、工夫しながらこどもたちが外国語を身近に感じてもらえるようにしています。 こどもたちへのモニタリングの中では、「みんなでお弁当を食べたかった。」「キッチンの企画をやってほしかった。」という声がありました。残念ながら、去年は全くできなかったのも、早く安全に食も共有できることを願っています。 またモニタリングでは、公共施設が使えない中で、対策をして使わせてもらえることへ感謝の声も非常に多くいただいています。皆さんがこもってしまう生活の中で居場所として使ってもらえる状況が昨年度は見られました。 大城児童館はこのような形で12年目の運営をなんとか終えました。
植松委員長	ただ今、令和2年度児童館・子育て支援室実績報告について、説明がありました。コロナ禍の中でも様々な工夫、あるいは心遣いをしながら運営されていることがよく分かりました。これについて、ご意見ご質問がありましたらお願いします。
中川委員	小木小学校の中川です。小学校の方も令和2年度は本当に大変な1年で、記憶が飛んでしまうほど様々なことがありました。令和3年度も同様にいろんな面で毎日毎日気を遣いながらスタートし、やっと1学期の終わりを迎えようとしています。 今、お話を聞いていて、そのような中でもすべての児童館・支援室が前向きに捉え、最初は落ち込まれたと思いますが、「つながりを大事にする」「コロナ禍だからこそ」という言葉がたくさん聞かれました。小学校・中学校とも同じ気持ちで、地域でやっていただいているのだなと涙が出そうな思いで聞いていました。 小学校・中学校でもこどもたちが不安定になったり、欠席が増えたり、保護者の方が精神的に落ち込んでしまったりという案件もありました。本校の児童の中には、保護者の方と休みの日も一緒に過ごせずに児童館に通っていた子もありました。なるべく休館せずに開けていただいていることをありがたく思っています。 これからも工夫して、「できることを考える」という考えで続けていただければと思います。

中野委員

支援室についてですが、このところ相談ができずに悩んでいらっしゃる親御さんが本当に増えています。なかなか友達に相談することもできずに、気軽に相談できるところもないと言われています。学校の担任にもなかなか相談しにくいようです。児童館の支援室で子育ての悩みを気軽に相談できる受入れ体制が、本当に素晴らしいです。そういうことの積み重ねで、不登校や問題行動の減少につながると思います。

本当に1年間お疲れ様でした。

ずっと聞いていて、基本は変わっていないんだなと思いました。昔から児童館で言われていた「こどものつながり」が大事にされていて安心しました。

このコロナ禍の中で遊具の見直しをどこかやっていたら、やはり自分たちの児童館をもう一度見直すということと言われた館があり、安心しました。

ジュニア奉仕団ってまだやってらっしゃるんですね。小牧にもそのような活動が続いていてよかったです。

また、新しい言葉がどんどん出てきますね。「リモート」や「配信する」など私たちの時代ではなかったことに取り組んでみえます。新しいことに取り組むには先生方も勉強しなくてははいけませんよね。私たちの時代もパソコンが使えずに勉強しました。新しいことと、昔から地道に大切にしている「こどものつながり」を基本としているということをお聞きし、これからの児童館にも基本は守っていただきたいと思いました。

利用人数は減っていることは仕方のないことだと思いますが、3部制にするなどの工夫をされています。児童館の職員の方の大切な思いだと思って聞いていました。

植松委員長

児童館に限らず様々な行事を進めていく上で、制限を受けるとまずはその制限の中でできることを第1に考えます。学校もそうでした。その後、行事そのものにも制限がかかるようになると、こどもたち、あるいは参加者が活動できず、何とかならないかと考えます。そうすると、先ほど発表にもありました。「コロナだからこそできること」を考える次元に移っていくと思います。

制約が厳しい中で、発言にもありました「物理的に離れていても、心理的につながっている」という観点を大切にしていれば、この先コロナが落ち着いて、物理的につながることができても、心理的に離れずにいられると思います。せっかくここで皆さん工夫されているので、次に活かしていただき、離れていてもつながっているものは、コロナが収まり近づけるようになれば更につながると感じていただきたいです。

数字について1つ2つ質問があります。総利用者数ですが、元年度と令和2年度の数を比べると全体で4割程度に減っています。そんな中、北里児童館だけが令和2年度総利用数が6割を超えています。何か秘訣があったのでしょうか。

山田館長 (北里児童館)	昨年度は小学生の来館がとても増えていました。こどもたちが友達と待ち合わせて定員いっぱいまで来館してくれていました。現在は中学生も増えており、昨年度6年生だった子が引き続き利用してくれていると思います。 昨年度は職員がこどもたちの中に入って声を聞くようにしました。コロナで話をする場所もないだろうと考え、できる限り関りを持つよう心がけて活動していたことが、昨年度の小学生の増加につながったと思います。
植松委員長	もう1点ですが、令和2年度の篠岡児童館の開館日数が極端に減っています。どこも9割程度の日数開館しています。篠岡だけが6割程度になっています。なにか事情があったのでしょうか。
寺田館長 (篠岡児童館)	申し訳ありません。誤りだと思います。確認して修正し、正しい数字を報告します。
植松委員長	この相談件数は、延べですか。
坪井館長 (大城児童館)	はい。延べ人数です。
植松委員長	延べでしたら、同じ職員に何件も相談が入ることはありそうですね。ありがとうございました。そのほかよろしいでしょうか。それでは、3. その他に移ります。事務局からお願いします。
服部係長	こまきこども未来館の市外居住者有料化につきましては、第1回会議において審議いただいたところではありますが、その際に、頂いたご意見等を踏まえ、再度有料化の在り方について整理させていただきましたので、その内容について報告をさせていただきます。 お手元の資料「こまきこども未来館の一部有料化について」をご覧ください。 まず始めに、前回からの変更点についてであります。 1点目として、施設利用において有料となる日ではありますが、繁忙期に市民の利用が抑制されることがないように、土日・祝日、夏休みや冬休みといった長期休暇に限り有料としました。 2点目として、施設の使用料をいただく対象につきましては、こども未来館の遊具や講座は、こどもを対象としていることを考慮し、満1歳以上とさせていただきます。 3点目としまして、心身に障がいのある児童及びその同伴者につきましては、無料となります。 次に、有料化する理由といたしましては、前回からの変更点でもふれさせていただいておりますが、今後、市外居住者の利用を開始すると、市外からも多くの来館者が見込まれ、市民が利用しにくくなる事態も想定されます。 このため、繁忙期に市民の利用が抑制されることがないように、土日・祝日や夏休みなどの長期休暇期間に限り、市外居住者の有料化を導入することで、休日等と平日の利用を平準化し、できるだけ多くの方に利用していただけるようにしようとするものであります。 なお、市外居住者の利用開始につきましては、コロナの感染状況によっては変更になる恐れもありますが、9月末頃を予定しております。 報告は以上となります。

森島館長	今年度11月6日に「こまキッズフェスタ2021」を開催する予定です。 例年は勤労センターで開催しておりましたが、今年度からはこちらのこども未来館にて、各児童館がブースを出して、工作や遊びを提供します。そのため、この日は各館の子育て支援室以外は休館とします。 また、各児童館からシャトルバスを運行し、普段未来館までは足を運びにくい方も、来ていただけるようにします。 こちらの様子は、次回の児童館運営委員会にてご報告させていただきます。 次回の運営委員会は令和4年2月頃を予定しております。皆様、よろしくお願いいたします。 最後に、参考資料として、令和3年度小牧市児童館のしおりを配布させて頂いております。各児童館の基本的な情報から、各館で行われているクラブ活動や子育て支援室の活動、年間の行事計画などを載せておりますので、ぜひご覧ください。 また、今月の児童館だよりも配布いたしました。 内容についてご意見などありましたら、事務局までお願いいたします。
植松委員長	ありがとうございました。事務局その他よろしいでしょうか。
服部係長	1点連絡です。 こども未来館について、開館時間の変更がありますのでお知らせします。7月17日（土）から3部制で運営していきます。 1部が10時から12時、2部が13時30分から15時30分、3部が16時から18時までです。密を避けながらできるだけ多くの方にお越しいただければと考えております。
植松委員長	ありがとうございました。それではこれで児童館運営委員会を終了します。